

＜開催のご案内＞

科学が好きな子どもを育てる教育実践・計画を募集する「ソニー子ども科学教育プログラム」
全国184校の小・中学校より選ばれた最優秀校

研究成果を発表する「子ども科学教育研究全国大会」開催
11月27日(金) 山梨大学教育人間科学部附属中学校
— 研究発表、公開授業、記念講演他 —

記念講演: ユニバーサルデザイン総合研究所 所長 赤池 学 氏
「生物に学ぶものづくりと未来」

後援: 文部科学省、山梨県教育委員会、甲府市小中学校校長会 他

公益財団法人 ソニー教育財団(会長 盛田昌夫)は、2014年度「ソニー子ども科学教育プログラム」で「最優秀校」に選ばれた山梨大学教育人間科学部附属中学校(校長:古家貴雄)にて、優れた教育実践を公開・発信する「子ども科学教育研究全国大会」を開催します。

「ソニー子ども科学教育プログラム」は、1959年にソニー創業者の井深大が始めた教育助成活動です。昨年度、最優秀校に選ばれた山梨大学教育人間科学部附属中学校は、生徒ひとりひとりの「実感をとまなう理解」にこだわり、多彩な手立てや教材教具の創意工夫など、提言性のある実践を展開されています。本大会では、元文部科学事務次官 御手洗 康氏を始めとした審査委員より高く評価された実践の様子を、公開授業などを通じて全国の教育関係者のみなさまに広くご紹介します。

また当日は、テレビなどでもお馴染みのユニバーサルデザイン総合研究所所長 赤池 学氏の記念講演「生物に学ぶものづくりと未来」を予定しています。



今年9月に広島県で開催した小学校での全国大会には、全国の教育関係者、学生、地域や学校関係者を含め約400名が訪れました。今回の素晴らしい取り組みと、次世代を担う子どもたちの学びの姿をぜひご覧ください。

※山梨大学教育人間科学部附属中学校の最優秀論文全文は、ソニー教育財団のホームページでお読みいただけます
http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2014_sci_yamanashi.pdf

※山梨大学教育人間科学部附属中学校からのご案内は、中学校のホームページをご覧ください
<http://www.wgr.yamanashi.ac.jp/modules/eguide/event.php?eid=10>

「ソニー子ども科学教育プログラム」最優秀校 全国大会(研究発表) 開催概要

山梨大学教育人間科学部附属中学校(山梨県甲府市北新1丁目4の2)

開催日時: 11月27日(金) 9:00~16:40

9:00~9:20 開会行事、9:20~9:40 研究発表、9:55~10:45 公開授業Ⅰ、11:00~11:50 公開授業Ⅱ
14:00~14:20 アトラクション、14:30~16:00 記念講演、16:10~16:40 閉会行事

研究主題: 「科学への感性を磨き、素朴概念を自ら科学的概念へ変容できる生徒を目指して」

内 容: 研究発表、各学年各教科での授業公開、授業案・教材に関するポスターセッションなど

記念講演: 「生物に学ぶものづくりと未来」 ユニバーサルデザイン総合研究所 所長 赤池 学 氏

主 催: 山梨大学教育人間科学部附属中学校、公益財団法人 ソニー教育財団、ソニー科学教育研究会

後 援: 文部科学省、山梨県教育委員会、甲府市教育委員会、甲府市小中学校校長会 他

「ソニー子ども科学教育プログラム」最優秀賞 論文

山梨大学教育人間科学部附属中学校

論文テーマ： 「科学への感性を磨き、素朴概念を自ら科学的概念へ変容できる生徒を目指して」
論文全文 (http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2014_sci_yamanashi.pdf)

【審査講評】

「感動」「わかる」「変容」「科学の役割」を授業改善の4つをキーワードとし、徹底して「実感をともなう理解」にこだわった実践を展開されました。「素朴概念を揺さぶる事象や体験の導入」「一人一人が実験観察できる教材の開発」「考えを交流する場の構成や機器の活用」「ポートフォリオと学習評価」などの多彩な手立ては、生徒の実態等を分析的に捉え、確かな指導観に基づいて単元や授業の構成を精緻に構想した結果であり、提言性のある実践であると認められました。さらに、生徒の生き生きとした探究活動を促す理科室経営や ICT 機器の効果的な活用などの地道な取り組みが、学ぶ環境づくりに結実していました。「自ら気付くこと」を大切にしながら、生徒の「素朴概念」や「理解の深さ」を丁寧に見取り、生徒が本当の変容に至ることを目指した取り組みは、教材教具の創意工夫にも貫かれており、他校にも参考になる実践です。

■ソニー子ども科学教育プログラムとは

「科学が好きな子どもを育てる」を主題に、理科や生活科を中心とした教育の「実践」と「計画」を募集しています。毎年、約200校の全国の小学校・中学校から、学校での取り組みを論文にまとめてご応募いただきます。

元文部科学事務次官の御手洗 康 氏を審査委員長に、各界の専門家が実践、考察・評価、次年度計画について審査します。予備審査・中間審査を経て、最優秀校など上位の入選候補校に関しては現地調査も行います。

最優秀校は翌年、計画の実践とともに、全国の教育現場でその成果を共有できるよう、「子ども科学教育研究全国大会」を開催し、主題に迫る取り組みの積極的な発信にご協力いただきます。

詳しくは、ホームページをご覧ください：<http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/index.html>

■ソニー教育財団について

ソニー創業者の井深大は、会社創立に際して「国民科学知識の実際的啓発活動」を目標に掲げています。日本の将来の発展を支える子どもたちが科学に関心をもち、科学を好きになるには、小・中学校における理科教育が最も重要であると考え、1959年に「ソニー理科教育振興資金」の贈呈事業を始めました。この事業を継続的に発展させるため、1972年に「財団法人 ソニー教育振興財団」を設立。2000年には子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展。これまでに延べ1万2千件を超える応募があり、50年以上もの間、子どもたちの教育に創造的、先駆的な取り組みを行っている全国の小・中学校や先生方を支援してきました。

一方で、井深大は「人間の能力は“環境”によって作られる」との考えから、幼児教育の大切さを訴え、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立し、その研究と実践を推進しました。2001年には2つの財団を統合して「財団法人 ソニー教育財団」を設立。2011年より「公益財団法人 ソニー教育財団」に移行し、今日に至ります。



ソニー創業者 井深大

<報道関係の問い合わせ先>

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川 4-2-1

TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035

公式ホームページ：<http://www.sony-ef.or.jp/>

公式フェイスブック：<https://www.facebook.com/SonyEducationFoundation>